令和7年度
「道徳教育応援チーム派遣事業」
実践校の取組

【道徳教育応援チーム派遣事業】

　栃木県では、道徳教育の充実を目指して取り組んでいる学校に対し、教育事務所や市町教育委員会と連携を図りながら、指導主事をチームとして派遣しています。
　本事業は、道徳科の授業改善や教師の指導力の向上、児童生徒の発達の段階に応じた道徳性の確かな育成を目指すものです。
　令和７年度は、次の３校で実践を行いました。

- 宇都宮市立陽西中学校
- 鹿沼市立西小学校
- 足利市立筑波小学校

　このリーフレットでは、本事業に協力いただいた各学校での取組や成果・課題等について紹介しています。
　各学校における道徳教育や道徳科の授業のより一層の充実に向け、実践校での事例をご活用ください。

＊本リーフレットでは、「特別の教科　道徳」を「道徳科」と表記します。

令和８（2026）年３月
栃 木 県 教 育 委 員 会

宇都宮市立陽西中学校

研 究 主 題
生徒が自ら考え、理解し、主体的に考え議論する道徳
～道徳的実践力を高める工夫～

◇研究のねらい

本校の道徳教育の重点目標は、「命や思いやり、感謝の心などに指導の重点をおいた『心の教育』を全教育活動において実践し、充実する。」である。さらに今年度は、学校スローガン「Keep going・生きる～一生懸命はかっこいい」を掲げ、一人一人がもっている力を発揮し、社会の変動にも対応できる「生きる力」を育むことを目指している。そこで、道徳科ではこれらを踏まえた計画を立案し、発問の工夫や、話合い活動の場面設定、ICTの有効活用などについて研究を進めていく。様々な事象に対して生徒が自ら考え、理解し、主体的に考え議論できる授業展開を目指し、生徒たちの道徳的実践意欲が高まるよう工夫したい。

◇実践内容

外部講師による模範授業を生かした「命の授業」

富津市立吉野小学校の三浦貴子校長先生による模範授業では、主題を「命を輝かせるために今をどう生きるかを考えよう」と設定し、講師の心を揺さぶる発問に生徒が本気で考え、議論する姿が見られた。まとめでは涙ぐむ生徒もおり、強い影響を受けていた。

【外部講師による模擬授業】

模範授業を生かし、学級の実態に応じた内容に発展させ、「命」をテーマにした授業を土曜授業で保護者へ公開した。さらに、「命」をテーマに継続して授業を行うことで、生徒の「命」に対する考えが深まり、道徳性が養われていることを実感することができた。

【土曜授業での一斉道徳】

【継続発展した授業実践】

学年ローテーション道徳

昨年度から実施している、学年職員によるローテーション道徳では、生徒たちの意欲向上や教師のスキルアップに有効であった。教師間で授業を見せ合い、生徒が自分の考えを表現しやすくするための板書方法、ICTの利活用、対話を促進するための「問い」について意見交換ができ、授業力向上に繋がった。また、担任が生徒の様子を客観的に見取ることで、新たな良さに気付くことができた。

【ローテーション道徳の様子】

授業参観、授業研究会を行い、新たな視点のアドバイス等から、課題を発見することができた。生徒から多様な意見を引き出すための導入や発問の工夫など、ローテーション道徳後半に向けて授業改善が図られた。

【学年毎の授業研究会】

授業公開・授業研究会

本研究の総まとめとして、全職員が参観する授業公開を行った。これまで実践してきたローテーション道徳や校内研修を生かし、発問や授業の展開など、工夫を凝らした内容であった。授業後のグループ協議では、各学年の取組についての情報交換や、公開授業についての意見交換が活発に行われ、研究の成果を発揮することができた。

【授業公開の様子】

○成果

道徳科の授業に関するアンケート調査結果から、多くの項目で生徒・教職員ともに授業前より授業後の方が肯定的回答の割合が高い結果となった。中でも、多くの生徒が道徳科の授業は「大切」であり、「ためになる」と感じていた。また、ほとんどの生徒が友達の考えを聞いて「はっ」としたり、「なるほど」と思うことがあり、話合い活動を通して、多様な考えを受け入れていることが分かった。これらの成果は、日頃から教師が意図的に話合い活動を授業に位置付けることで、生徒が多様な考えに触れ、気付きや学びを促している成果である。本事業によって、教師が教材と向き合い、自信をもって授業に臨むことで、教師のスキルアップだけでなく、生徒の道徳性を育むことにもつなげることができた。

●今後の取組

研究・実践が一過性とならないよう、引き続き、道徳教育推進教師と学年の道徳担当教師が中心となって研究を進め、担任が授業実践・改善を繰り返しながら学校全体で道徳教育の推進を図りたい。

鹿沼市立西小学校

研 究 主 題
自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成
～「交流し、考えを深め議論する」道徳科の授業を通して～

◇研究のねらい

研究主題に迫るため、①交流の工夫、②授業構成の在り方、③中心発問・問い返しの発問の重要性、④ねらいの明確化を視点に検証しながら研究に取り組む。道徳科において多様な考え方、感じ方を交流する過程を通じ、自分の考えを深める指導を行いながら、よりよく生きようとする児童の育成を目指す。

◇実践内容

外部講師の提案授業を生かした授業の工夫

道徳教育実践研究家の中山和彦先生による提案授業を実施した。児童の考えが広がるような発問や板書計画等の在り方について現状を見直すことができ、日々の授業に生かすことができた。

中山先生による提案授業を生かし、研究授業に向けての授業づくりでは、導入の工夫やねらいとする価値を方向付けるための効果的な発問を考えることができた。

研究授業では、児童の実態を踏まえ、一人一人の発言を大切にした問い返しや構造的な板書により、児童が安心して議論する雰囲気を醸成することができた。

【提案授業の様子】

【研究授業の様子】

教職員の学び合う集団づくり

指導案検討会では、授業者の思いや児童の実態を踏まえながら、研究のねらいを明確にした上で、ねらいにせまるための授業展開について様々な意見を活発に出し合った。

校内研修を通し、若手の教職員にとって道徳科の基本的な授業構成の在り方、中心発問や問い返し、板書などについて日々の授業に自信をもつことができるような研修が構築された。

本事業後も、道徳教育推進教員を中心に互いの道徳の授業を公開し合うなど、日々の授業実践への意欲や同僚性が高まってきた。

【指導案検討会の様子】

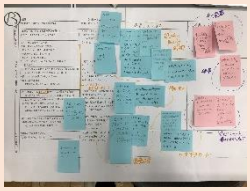
【模擬授業の様子】

授業研究会の活性化

指導案検討会を通して、全教員が研究授業を自分の事として捉え、活発に議論を重ねることで、充実した授業研究会になった。

授業研究会では、2グループに分かれて研究授業を分析し、成果がみられた点と改善点について協議した。授業づくり検討会から全教員で関わってきたことにより、授業者の思いや児童の実態を踏まえた協議を行うことができた。

【グループ協議の様子】


【協議内容のまとめ】

○成果

・ 道徳科の授業において、自分の思いを語ろうとする児童が多くなった。低学年では授業を楽しみにする児童が増えるとともに、上学年においては自己を深く見つめ、振り返りを記録しようとする児童が増えた。

・ 本校の学校課題「自分の考えをもち、伝え合うことでより良い学校生活をつくろうとする児童の育成」と本事業における道徳の研究主題を無理なく関連させながら研究を進めることができた。学級会活動と道徳科の授業の両輪で取り組むことにより、教職員の学校全体の教育活動を通して「よりよく生きようとする児童の育成」にせまっていこうとする意識が高まった。

●今後の取組

・ 児童の実態に応じたねらいとする道徳的価値にせまるための中心発問の吟味や問い返しについては、今後更に授業の中で工夫・改善を図っていく。そのためにも、気軽に授業を公開し合える同僚性の構築を図っていく。

・ 授業で活用した教材資料を適切に保管し、道徳科の授業の財産として引き継げるようにしていく。

足利市立筑波小学校

研 究 主 題
互いのよさを認め合い、よりよく生きる児童を育む道徳教育
～児童自ら心の成長を実感できる道徳科における評価の工夫～

◇研究のねらい

本校では、道徳科の授業に意欲的に取り組む児童が多く、自分なりの考えをもって学習に臨んでいる。一方で、多様な考えをもっていても、発表の場面では自分の思いを表現することにためらいを感じ、対話を通して考えを深め合うことに課題が見られた。そこで、互いのよさを認め合いながら学び合うことを大切にし、「考え、議論する道徳」の実践を通して、よりよく生きようとする児童の育成を目指していきたい。あわせて、授業中の児童の発言や姿等から評価の在り方についても理解を深め、授業改善につなげていきたい。

◇実践内容

外部講師による提案授業

外部講師として道徳教育実践研究家の中山和彦先生を招聘し、2年生の道徳科の提案授業を実施した。児童の発言を丁寧に扱いながら授業を構成していく姿や、問い返しによって思考を深めていく授業展開を通して、道徳科の特質を生かした授業を全職員で学ぶことができた。

児童の生活体験や思いを大切にしながら、価値について考えを深めていく授業の在り方について学ぶ機会となった。

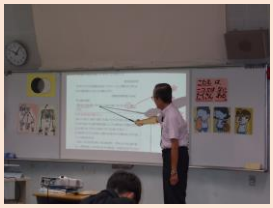
【外部講師による提案授業の様子】

【研究協議の様子】

評価についての研修

全職員を対象とした校内研修を行い、道徳科における評価の考え方について中山和彦先生より講話をいただいた。道徳科の評価の目的は、授業改善と児童の成長支援のためであることや、児童の学習状況を発言だけで見取るのではなく、表情や目線、視線やうなずきなど、多様な観察ポイントから学習状況を見取る必要があることなどを全職員で学ぶことができた。

研修を通して、授業中の児童の姿を教師の関わりを通してどのように見取り、指導に生かしていくかについて、教職員の共通理解が図られた。


【外部講師による講話の様子】

【教師の関わりの様子】

校内研修の充実

3年生の研究授業に向けて、指導主事を交えて事前に指導案の検討会を実施した。「考え、議論する道徳」の視点を意識し、学校で目指す児童の姿を確認しながら、教材の捉え方や発問の在り方、話合いの進め方について具体的に協議を行った。

実際の研究授業後の協議では、児童の姿を基に発問の有効性等について振り返るとともに、成果と課題について整理を行った。本研究会での学びを、明日からの授業に生かそうとする教師の様子が見られた。

【指導案検討会の様子】

○成果

- 「考え、議論する道徳」を意識した授業づくりが進み、児童が自分の考えをもって話合いに参加しようとする姿が多く見られるようになった。
- 教師が授業中の児童の発言や表情、反応に目を向け、価値理解の過程を捉えようとする意識が高まってきた。
- 評価についての理解が深まり、評価場面を意識した授業づくりや実践をする教師の姿が見られるようになってきた。

●今後の取組

- 「考え、議論する道徳」の授業づくりを継続し、児童が安心して自分の考えを表現できる学習環境を整えていく。
- 他者との対話や自らの葛藤を通して考えを深めることができるよう、発問や話合いの在り方を工夫していく。
- 評価を研究の視点として位置付け、授業中の見取りや振り返りの記述等をどのように評価を行っていくことが有効であるか、教職員の共通理解を図っていく。
- 校内研修や授業研究を継続し、教職員が学び合いながら指導力の向上を目指していく。

栃木県教育委員会事務局義務教育課
〒320－8501　宇都宮市塙田１－１－20
TEL：028－623－3392